

配管用ゴムジョイント取扱注意事項

◎この注意事項は各種配管用ゴムジョイントに共通の内容です。個々の製品についてはそれぞれの製品の項目をご覧ください。

用途	配管用ゴムジョイントは配管の防振・防音及び変位の吸収を目的とした製品です。 その他の目的ではご使用にならないで下さい。																
使用条件	必ず決められた条件以内（以下の項目）でご使用下さい。 ① 流体の種類 ② 圧力 ③ 変位量 ④ 温度 ⑤ 使用環境（地上用、埋設用、吸込側、吐出側） ※原則として液体の中で浸漬した状態ではご使用になれません。 ※フランジ規格の呼び圧力と実際に使用できる最高使用圧力とは必ずしも一致はしておりません。最高使用圧力については個々の製品の項目をご覧ください。																
入荷時の確認	入荷時には下記の項目をご確認下さい。 ① 運送中の損傷の有無 ② 製品の仕様 ③ タイロッドなど付属品類の員数																
保管	① 直射日光にあたらぬ冷暗所に保管願います。 ② 製品の上にものを載せたり、製品が変形した状態で保管しないで下さい。 ③ パッキンを損傷しないように、パッキン面は垂直な状態で保管願います。 ④ 油等の有害なものが付着した状態で保管しないで下さい。																
運搬・取扱	① 蒸気・溶接など、高温がかかる作業を行わないで下さい。 ② 鋭利な角のある工具等で突いたりしないようにして下さい。 ③ パッキン面は特に注意してお取り扱い下さい。 ④ ワイヤで吊り下げる場合は必ず保護のために製品との間にクッションをお使い下さい。 ⑤ フォークリフトの爪で突かないで下さい。																
取付け	① 大きく芯ずれした配管にジョイントを無理に変形させて取付けると極端に寿命が短くなります。配管を正しく修正してから取付けて下さい。 ※ 取付け時の許容変位量は通常最大変位量の30%以内を目安にして下さい。（但し寿命は短くなります。） ② ゴムジョイント同士、及びゴムライニング管との接続の場合はフランジのシールが完全に出来ない場合がありますので、その場合には間に相フランジを挟んで取付けて下さい。 ③ ゴムシール面を傷つける恐れがありますので、相手フランジはFFフランジをお使い下さい。またフランジ面に溶接のバリ等の突起がない事をご確認下さい。 やむを得ずRFフランジの様な突起のあるフランジをお使いになる場合は、ジョイントシート等の硬質ガスケットをご使用下さい。ガスケットは全面形（フランジ形）とし、内径を製品内径と同じにする事を推奨いたします。 取付けボルトを過剰に締めこみますと、ガスケットを破壊してゴムシール面を傷つける可能性がありますのでご注意下さい。 ④ フランジのボルト締めは対向する位置から順番に均等に行って下さい。 ⑤ フランジボルトの締め付けトルクの目安は概ね次のとおりです。この値を超える過大なトルクで締め付けると、最悪の場合パッキン部のゴムを損傷する恐れがあります。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>ボルト呼び径</th> <th>締め付けトルク (N・m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>M12</td><td>15</td></tr> <tr><td>M16</td><td>30</td></tr> <tr><td>M20</td><td>60</td></tr> <tr><td>M22</td><td>80</td></tr> <tr><td>M24</td><td>110</td></tr> <tr><td>M30</td><td>220</td></tr> <tr><td>M36</td><td>400</td></tr> </tbody> </table> <p style="margin-left: 20px;">単位換算 ※ 1N=0.102 kgf</p>	ボルト呼び径	締め付けトルク (N・m)	M12	15	M16	30	M20	60	M22	80	M24	110	M30	220	M36	400
ボルト呼び径	締め付けトルク (N・m)																
M12	15																
M16	30																
M20	60																
M22	80																
M24	110																
M30	220																
M36	400																
定期点検	ゴムは有機物ですので時間とともに劣化します。半年に一度下記の項目を点検して下さい。 ※但し、取付け後10年以上経過したものは、無条件に直ちに交換されることをお勧めします。 ① 外面ゴムに甚だしい亀裂が発生していないか ② フランジ部及びゴム表面からの洩れがないか ③ フランジが極端に錆びていないか ④ 加圧時にボルトがゴムに触れていないか ⑤ 最大変位量近くまでに変形していないか ※最大変位量はジョイントが取付けられて一定期間経過後に、ある期間吸収できる変位量を表します。 大きく変位してしまった場合にはジョイントの寿命のために速やかに配管を正しく修正して再度ジョイントを取付け直されることをお勧め致します。 ⑥ その他外観上異常はないか																